ゲームなどのアプリ開発から通信設備を支える仕事まで多彩な専門家が活躍

今や多くの高校生にとっても日々の生活に欠かせない存在となっているスマートフォン。電話やメールなどの通信機能を支える通信会社、スマートフォン本体を作るメーカー、ゲームなどのアプリを作るアプリ開発会社、さらにこの分野専門の広告会社などを舞台に、企画・営業・技術などの幅広いプロが活躍する業界だ。その仕事のバリエーションをまとめて紹介！

>> 人々のコミュニケーションや生活を便利にする

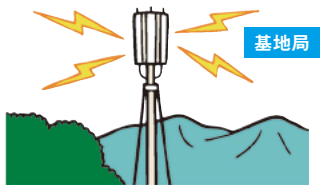
スマートフォン業界

取材・文／伊藤敬太郎　撮影／田中史彦　イラスト／桔川 伸

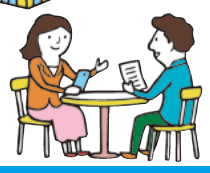
仕事がわかる業界図鑑 vol.43

スマートフォンの販売や通信インフラを支える
携帯電話会社

スマートフォンで電話やメールをするために必要な通信インフラの設計・開発・管理、さまざまなアプリを活用したサービスの企画などを行う会社。直営・フランチャイズのショップでスマホの販売や顧客向けのサービスも行う。



携帯電話会社が指定する基本的な条件に従ってメーカーがスマートフォンを開発し、提供する



商品・サービス企画

電子マネー、雑誌読み放題、健康管理など、アプリを活用したさまざまな商品やサービスを企画する仕事。アプリ開発会社と協力し、ユーザー目線で斬新なアイデアを考える。

無線通信エンジニア

スマートフォンの通信機能を支えるインフラを設計・開発する仕事。より速く快適な通信を実現するために、基地局の設置を計画したり、新しい通信技術を研究・開発したりする。

携帯電話ショップスタッフ

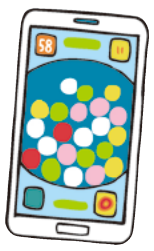
街の携帯電話ショップでスマートフォンを販売する仕事。スマホの機能やさまざまなサービス、料金体系などについてユーザーに直接説明する役割なので最新の商品知識は欠かせない。

協力

アプリ開発

アプリやゲームの内容を企画し、開発する仕事。ユニークでニーズのあるアプリを考え出す発想力やビジネスセンスに加え、プログラミングスキルやネットワーク系の知識も必要。

- ゲームディレクター
- ゲームデザイナー／プログラマー



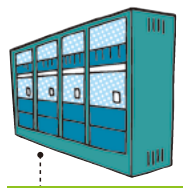
ビジネスや生活を便利にするアプリやゲームアプリなどを開発する会社。アプリの内容を企画・開発する仕事はもちろん、スマートフォンの通信ネットワークを利用するので、システムの開発や管理にかかわる仕事も多い。

UI/UXデザイナー

アプリ画面のデザインをする仕事。アプリのイメージを印象づけるUI（ユーザーインターフェース）のデザイン、ユーザーが直感で操作できる工夫などが求められる。

サーバーサイドエンジニア

スマートフォンの通信機能を活用したアプリが快適に動作するようサーバー側のシステムを開発し、管理する仕事。Java、PHPなどの開発言語やデータベースの知識が求められる。



ネットワークエンジニア

スマホアプリ、ゲームアプリなどを支えるネットワーク環境を開発・管理する仕事。ネットワークサーバーや接続機器、さらにセキュリティに関する知識や技術が重要になる。

スマートフォンの端末を開発する
スマートフォンメーカー

スマートフォン端末の設計・開発・製造を行うメーカー。OS、カメラ、各種センサー、液晶画面など他社の最新技術も採り入れて複雑な機能をもつスマートフォンを作り上げる。

機構設計

スマートフォンの形状や構造を設計する仕事。デザイナーなどが作った仕様書に基づいて、各部分の形や部品の配置を決めていく。機械工学などの専門知識が生かせる。

スマホのOSはグーグルのAndroidとアップルのiOSがメジャー。アップルはハードも自社開発。

組み込みシステム開発

スマートフォンやアプリを動作させるための小型のコンピュータシステム（組み込みシステム）を開発する仕事。IT系の技術に加え、機械工学系の技術なども必要とされる。

アプリ開発

スマホに標準搭載されるアプリを開発する。搭載するアプリによって機種ごとの特徴を出すため、新しい機種を開発するたびに、魅力的で便利なアプリになるよう、工夫をこらす。

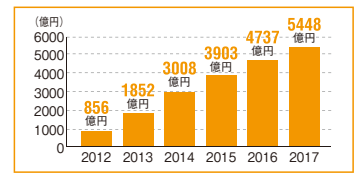
スマートフォン広告営業

詳細なデータ分析に基づいて、顧客に効果的な広告戦略を提案する仕事。広告効果を高めるためのイベントやキャンペーンの企画・提案なども手掛ける。

データ分析

スマートフォンユーザーの広告へのアクセス件数やブラウザ、アプリ内での閲覧行動に関するデータを集めて分析する。IT系の技術に加えて統計学などの専門知識も求められる。

●スマートフォン広告市場予測



2014年の市場規模は前年比162%増の3008億円。今後も右肩上がりの成長が見込まれる。2015年以降の数値は予測値。

CyberZ／シード・プランニング共同調べ

スマートフォンの契約数は2015年3月時点で約6850万件（MM総研調べ）。スマホの普及とともに広告プロモーションのスマホシフトが進み、スマホに特化した広告戦略やマーケティングを提案する会社も増えている。

スマートフォン用のアプリやゲームを開発する
スマホアプリ開発会社／スマホゲーム開発会社／SNS会社

スマートフォン上での広告戦略を提案する
スマートフォン広告会社

最新の業界事情

今後期待されるのはウェアラブルとの連動

スマートフォンは2010年代前半に一気に契約数を伸ばし、現在は需要が一巡。今後は契約数の伸び率は落ち着いていくとみられている。その一方で、流通業界など異分野の会社が、大手携帯電話会社の通信インフラを利用して格安料金のスマホ事業に乗り出す例が増えている。また、今後期待されるのは腕時計型、グラス型などのウェアラブル製品との連動。例えば、スマートウォッチでユーザーの生体情報を取り込み、スマホで健康管理を行うといったサービスの普及や多様化がどこまで進んでいくか、要注目だ。

職種 PICK UP!!

データ分析

株式会社CyberZ
スマートデバイスステクノロジー事業部
エンジニア
玉川（すなむ） 奨さん（29歳）

慶應義塾高校、慶應義塾大学理工学部管理工学科卒業。同大学大学院理工学研究科開放環境科学専攻オープンシステムマネジメント専修前期博士課程・後期博士課程修了。2014年4月にサイバーエージェントに入社。同年5月にCyberZに出向。

データ間の関係性を探り広告戦略提案につなげる

CyberZはスマートフォンに特化した広告マーケティング会社。広告効果を測定する「F・O・X」というツールの開発も手掛けており、玉川さんはF・O・Xを使ったデータ分析を担当する。

F・O・Xは、ユーザーの流入広告経路別にアプリ内での動きを把握でき、途中の細かな動きまで膨大なデータを蓄積することができる。「ただし、蓄積するだけでは大量の数値の羅列にすぎません。顧客ごとに、そこから必要なデータを抽出し、複数のデータの関係性などを分析して、次の広告戦略提案につながるわかりやすいデータにまとめていくのが私たちの仕事です」

分析に必要なのは統計学の知識。一方で、例えば〝ユーザーのこの動きはその後の課金行動に関連がありそう〟と人が思いつかないデータに目をつけるには発想力が必要だ。「ここでいいアイデアを得るには顧客とコミュニケーションを重ね、顧客のビジネスをしっかりと理解することが非常に大切になります」

玉川さんの大学・大学院時代の専門は人工知能。同社には仕事時間の20%を通常業務以外の研究・開発に充てられるルールがあり、今は広告戦略やデータ分析に人工知能を活用する方法も研究している。

「人間的な直感とデータ・理論の両方が求められる広告は人工知能が生かせる分野。自分の専門性が役立つ領域ですし、今後も力を入れていきたいですね」

玉川さんの「一日」

勤務時間は10時から19時。午前中はじっくり「考える」時間に充てる。午後以降はツール開発、ミーティングなどの業務。新卒で入社して半年でチームリーダーを任されており、メンバーのマネジメントも大事な仕事。

この職業に就くには

スマートフォン業界に限らず、IT業界や一般企業でもデータ分析の専門家へのニーズは高まっている。資格などが求められる仕事ではないが、ITスキルに加えて、統計学などの高度な数学の知識やビジネスの知識も求められるので、これらが幅広く学べる学部・学科で学ぶのが有効なステップ。大学院に進んで専門性を磨くのもあり。